

仙台支部 紅灯の計 (※1)中第 43 回卒 関 保 信 (※2)

母校が創立百周年の栄光を迎える事に付いて、吾等地元を離れて居る者にとっては、特に素晴らしい思いが強く、胸を張って母校の歴史を披露して、優越感に浸っている。

それと同時に、仙台に於ける馬城会支部の活動も、戦前は宮城県庁の先輩諸兄が中心で、運営していた事を思い起こして居る。

戦後、支部の動きが具体的になって来たのは、昭和 40 年代後半からである。

已に亡くなられた相中 22 回の大先輩、三浦清一 (※3) さんが仙台のト真中、有名な一番町に、三浦会計事務所を設立されて居て、此处を中心に運営が始められ、昭和 53 年に第 1 回の支部総会開催に漕ぎ着けた。

その後順調に進み昭和 62 年、第 2 代支部長にカメラの『コセキ』の会長、相中 31 回の伏見亮 (※4) 先輩を頂き、平成元年には支部初の名簿作成が行われ、確立して来た。

次に第 3 代支部長には相中 44 回の高橋治 (※5) 氏が就任し、平成 6 年、第 2 回の名簿作成が成された。記載会員 7 百余名で、これに依り、仙台地区の潜在同窓生は約 2 千名位と推定され、スタッフ一同、更に頑張ろうと声を掛け合った。そして平成 8 年の現在、年 1 回の総会で親密度を深めている。

総会準備会、連絡会等の集まりは、役員も多く職場も多岐に亘っている為、実現が仲々大変な処から、止むなく最少人数の三役会と称して、支部長、副支部長、事務長の集合で、基本方針の検討、総会の内容、日時場所等話し合い、纏った処で、他の役員の詳細を得て、実施の決定と云う形を取って居る。

現高橋支部長は、宮城県福祉事務関係の施設理事長等を歴任する重責にあり、副支部長佐々木義郎 (※6) さんは、相中 37 回、宮城県庁の総務課長をされた先輩、次に相中 46 回で J R 東日本東北管理部総務課長をされた生駒浩 (※7) 氏、私が 43 回生で現在大和産業ガス (株) の顧問、事務長は、『コセキ』の経理課長で相高 10 回、業界最前線で活躍の八幡厚 (※8) 氏。

このメンバーが、仙台有名飲食街、花の国分町で、夜 7 時頃から会合。その会場はこれ又、国分町で有名店『おでん三吉』。

振りハジマキにチョビヒゲの名物オヤジさん。支部長と戦後間もない頃の、県庁同僚の仲。そんなフレイキから、遠慮無しの思いの儘の語らいで、お酒も少々廻っての話の中から、総会の骨子が固まって来ると云う、楽しい、ホノボノとした集いである。

この事が、やがて遠く時が過ぎて、何時の日か、ふと思い出す事があつた時は、きっと鮮やかな灯の様に、嬉しく甦る事だろう。

ちなみに、この集りについて、私の以前の日記に、『紅灯の計』と記してある。何げない、心の、つぶやきが、こんな風にかかせたのだろうと苦笑している。

- (※1) 『相中相高百年史』 〈1998(平成10)年7月6日発行)「思い出の記」より。
- (※2) 中村出身。昭和20(1945)年卒。大和産業ガス(株)取締役業務部長。
- (※3) 中村出身。大正13(1924)年卒。
- (※4) 大野出身。昭和8(1933)年卒。
- (※5) 旧姓 西。原町出身。昭和20(1945)年卒。仙台工専。(福)仙台ビーナス会理事長・国際交流センター理事長。
- (※6) 昭和14(1939)年卒。(会員名簿で氏名一部合致せず、人物特定できず。)
- (※7) 中村出身。昭和22(1947)年卒。東北学院短大。元国鉄・仙台鉄道管理局総務部文書課長。
- (※8) 中村出身。昭和33(1958)年卒。

(転記&※脚注 村山)